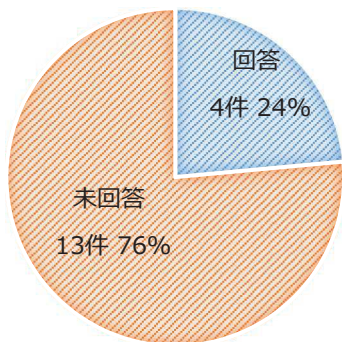


【14 短期入所生活介護事業所】

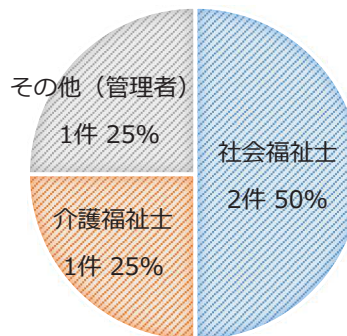
回答者について

■ 調査数及び回答率



■ 回答 ■ 未回答

■ 職種



■ 社会福祉士 ■ 介護福祉士 ■ その他（管理者）

■ ここ3年程度の多職種や他機関連携の図りやすさ

ここ3年程度の多職種や他機関連携が図りやすくなりましたかの問いに対し、「そう思う」「ややそう思う」が50%となっている。

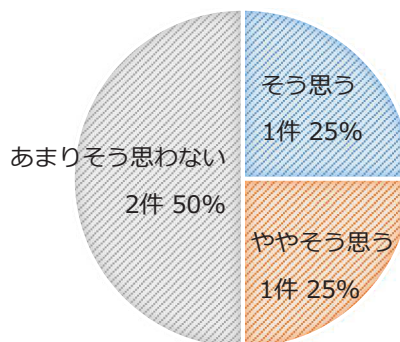
理由としては、

- ・ 24 時間指示を受けることができ、安心して受け入れが可能。
- ・ 各医療機関や在宅サービス事業所、居宅介護支援事業所との情報共有はしやすくなった。と回答している。

「あまりそう思わない」「そう思わない」の理由

としては、

- ・ 利用者の体調悪化時に、対応に苦慮することも多く、土曜や日曜などは連絡がつかない。
- ・ 特にここ数年で大きく変わったように思わない。オンラインでのやり取りが進化した一方で、通常の電話連絡や直接対面でのやり取りの機会が減り、実質上、連携の質が良くなっているかと問われると疑問がある。



■ そう思う ■ ややそう思う
■ あまりそう思わない ■ そう思わない

4つの場面について

■「日常の療養支援」の連携で感じている困難さと解決策

- ・短期入所生活介護では対応の難しい状態の利用者に対して、必要な内服薬や軟膏の処方がされていない。医療ニーズが高い方をショートステイで受け入れることは難しいため、担当のケアマネジャーには、急務であったとしても利用するサービスが適切であるかを検棟してもらいたい。
- ・褥瘡があるにも関わらず、受診ができていない、必要な薬の処方がされていない。介護事業所における医療職種の充実。
- ・医師が在中せず、看護職の夜勤がない事業所では医療的な対応は限られる。主治医不在時の連携に困難を感じる。検温、バイタルの他に異常に気付ける観察力と他職種の報連相。

■「入退院支援」の連携で感じている困難さと解決策

- ・ショートステイでコロナ感染症が発生した際などは、特に入院への支援などに戸惑うことが多い。入院設備の充実。
- ・病棟と連携室との連携が取れてなかったのか、突然の退院がありケアマネジャーが知らないことがあった。異常を感じた際の状態詳細報告が出来る。

■「急変時の対応」の連携で感じている困難さと解決策

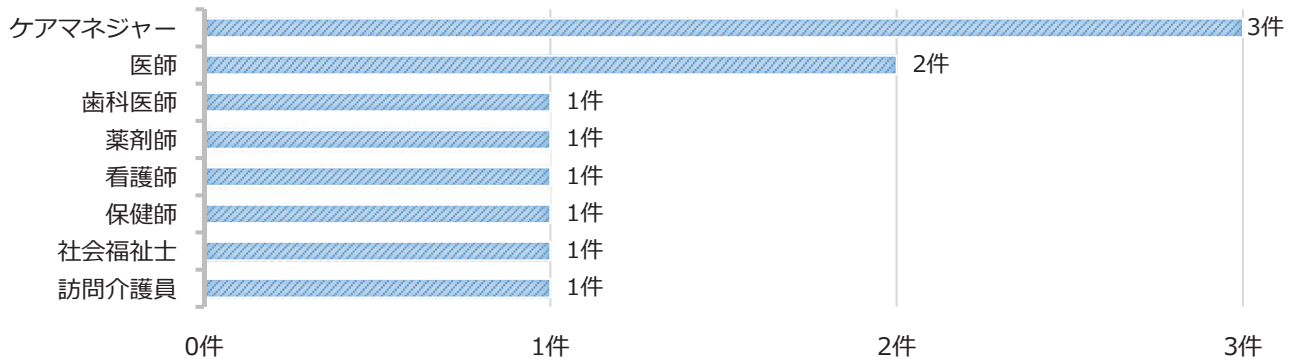
- ・ショートステイの利用者を受け入れる際に、担当ケアマネジャーや、緊急連絡先になっている家族への連絡がとれない。家族に状況説明ができるように、確実に繋がる連絡先を把握しておく。また、家族にもしっかりと事前説明を行う。
- ・医療職が手薄であり、限られたことしか出来ない。介護事業所における医療職と医療設備や機器の充実。
- ・事業所の判断で対応を行わざるを得ない時がある。多職種連携し迅速に動く役割分担。

■「看取り」の連携で感じている困難さと解決策

- ・主治医との連携などに不安があるため、受けることが出来ていない。介護事業所における医療職と医療設備や機器の充実。
- ・看取りの状況の方の受け入れ時、主治医不在時に連絡が取れないとの話を受け困った事がある。多職種連携し迅速に動く役割分担。
- ・対応は行えていない。家族に状況説明ができるように、確実に繋がる連絡先を把握しておく。また、家族にもしっかりと事前説明を行う。

■ 今後、より連携を深めていきたい職種

「ケアマネジャー」が3件と最も多く、次いで、「医師」が2件となっている。



※ 「歯科衛生士」「管理栄養士・栄養士」「理学療法士」「作業療法士」「言語聴覚士」「介護福祉士」「精神保健福祉士」

- ・ 医師.ケアマネジャー：利用者の情報を把握し、病状の悪化時などがあった際には連携して対応を行いたい。
- ・ 医師.薬剤師.看護師.保健師.ケアマネジャー.社会福祉士.訪問介護員：介護の職種が医療職の方と普段から連携を図っておくことで、互いが困った時にスムーズに運ぶことが出来る。
- ・ ケアマネジャー：短期入所と利用者、家族との橋渡しには欠かすことが出来ない。
- ・ 歯科医師：口腔衛生等の管理が、全身疾患や認知症の予防に繋がる。

人吉球磨在宅医療介護連携推進事業のホームページ「だんだんなあネット」について

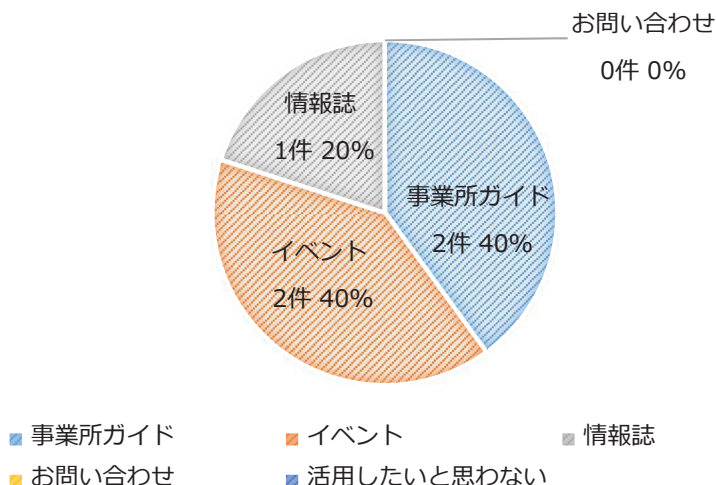
■ 「だんだんなあネット」の活用状況

だんだんなあネットが「あるの知らない」が100%と、短期入所生活介護事業所では全く活用されていないことが分かった。



■ 活用している ■ 活用していない ■ あるの知らない

■ 今後活用したいと思うページ



■ 事業所ガイド ■ イベント ■ 情報誌
■ お問い合わせ ■ 活用したいと思わない

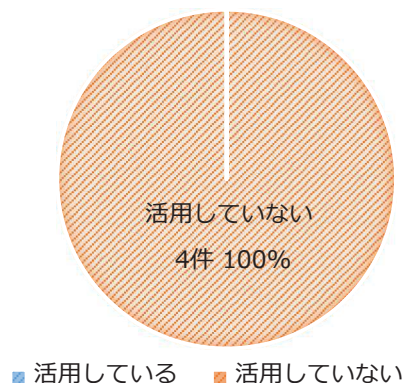
■載せてほしい情報

- ・介護や医療に関する研修会などの情報。
- ・医療と介護の連携の仕方等。
- ・各事業所の特色や受入れ条件等。

医療と介護の情報共有シートについて

■「医療と介護の情報共有シート」の活用状況

医療と介護の情報共有シートを「活用していない」が100%と、短期入所生活介護事業所では全く活用されていないことが分かった。



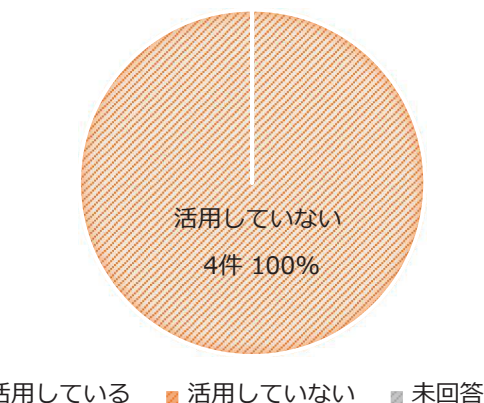
■シートを活用していない理由

- ・今後、機会があれば活用していきたい。
- ・ケアマネジャーからシートをもらったことがない。
- ・独自の様式で作成している。
- ・シートの存在や活用方法について、意識したことがなかった。

医療と介護の連絡シートについて

■「医療と介護の連絡シート」の活用状況

医療と介護の連絡シートを「活用していない」が75%と最も多く、次いで「活用している」が19%と調剤薬局ではほとんど活用されていないことが分かった。



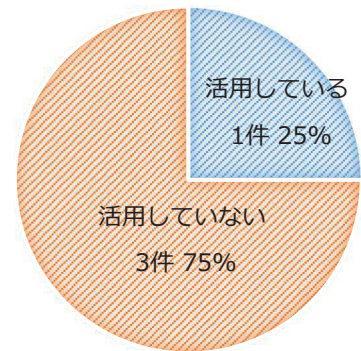
■シートを活用していない理由

- ・連絡シートについて、その存在や活用方法を意識したことがなかった。
- ・知らなかった。
- ・独自の様式で作成している。
- ・情報を確認したい場合は、文書でやり取りをするよりも、電話などを活用したほうが早い。主治医の先生も忙しい。

くまもとメディカルネットワークについて

■くまもとメディカルネットワークの活用状況

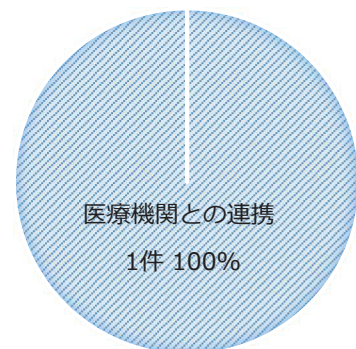
くまもとメディカルネットワークを「活用していない」が75%と最も多く、次いで「活用している」が25%と短期入所生活介護事業所ではほとんどが活用していないことが分かった。



■ 活用している ■ 活用していない

■くまもとメディカルネットワークの活用方法

活用方法としては、「医療機関との連携」が100% (1件)となっている。



■ 医療機関との連携 ■ 介護事業所との連携
■ 調剤薬局との連携 ■ 歯科院との連携

■くまもとメディカルネットワークを活用してみての意見

- ・ 医療機関に入院している方の状況を把握できる。

■くまもとメディカルネットワークを活用していない理由

- ・ メディカルネットワークの利用を始めたばかりで、利点と難点を把握できていない。
- ・ 短期入所利用者が、ネットワークの登録をしているかも不明である。
- ・ 嘱託医が導入していない。

その他について

■ 後継者不足や人材不足に対する取り組みなど

- ・ 職員の高齢化が進む中で、若手の職員に対してのスキルアップを目指して研修などを行っている。
- ・ ハローワークのほか、人材紹介会社などの活用。
- ・ 資格取得のための助成。
- ・ ICT の導入。

■ 医療と介護の連携について、日頃感じていることなど

- ・ 今後は、医療ニーズの高い利用者が増えてくるのではないかと考えるため、適切なサービスが提供できるように、情報の共有がしやすい環境づくりが必要。
- ・ 垣根を低くして、互いが協力連携できるようにしたい。
- ・ 異常時の見極めの違いを感じる。医師より「これくらいのことで」など。